「いのちを支える社会づくりへ」

～米国子どもの死亡事例検証と英国グリーフケアに学ぶ～

子どもの死亡事例の検証制度

予防に向けた体制構築に向けて

死別を支えるグリーフケア

日英の社会政策の視点から考える

6/2（金）

18:00

日本財団ビル

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

お問い合わせ

日本財団 ソーシャルイノベーション本部 国際ネットワークチーム
担当：齊藤・田中
Tel: 03-6229-5181　Email: fellowship@ps.nippon-foundation.or.jp

プログラム

18:00 －主催者挨拶/登壇者紹介
18:10 － パート１：山岡祐衣「子どもの死亡事例の検証制度～予防に向けた体制構築に向けて」
（発表・QA・ワークショップ：90分）
19:40 － 休憩
19:50 － パート２：尾角光美「死別を支えるグリーフケア～日英の社会政策の視点から考える」
（発表・QA・ワークショップ：90分）

パート１

諸外国では多職種で子どもの死亡事例について情報を収集し検証する制度（チャイルド・デス・レビュー）が導入されています。米国の検証体制について紹介するとともに、実際に模擬事例を用いて、予防可能な要因や対応策について、参加者と共に考えを深めます。

パート２

日本でも近年、特に東日本大震災以降「グリーフケア」がメディアで取り上げられることも増え、認知度が少しずつ高まってきました。「欧米は進んでいる」イメージのあるグリーフケアですが、英国の実態の一部をお伝えすると共に、とりわけ不足している子どもたちに必要な支援を一緒に考えましょう。

登壇者プロフィール

山岡 祐衣（やまおかゆい）
（オクラホマ大学児童虐待センター　リサーチフェロー）

小児科医として勤務中に児童虐待や重大事故の事例に出会い、その予防的介入に関心を持つ。日本財団国際フェローとして、2016年8月よりオクラホマ大学の児童虐待センターに留学中。児童虐待における他職種連携教育プログラム(Interdisciplinary training program)や小児死亡事例の検討体制(Child Death Review)について学んでいる。

尾角 光美（おかくてるみ）
（一般社団法人リヴオン 代表理事）

19歳で母を自殺により亡くす。2009年リヴオンを設立。母の日プロジェクト、遺児支援など活動をはじめる。全国で宗派を超えて僧侶らと協働し「グリーフケアが当たり前にある社会の実現」を目指して活動している。著書に『なくしたものとつながる生き方』（サンマーク出版）現在は国際フェローの一人として英国ヨーク大学大学院にて国際比較社会政策学を学んでいる。

このセミナーについて

現在日本財団国際フェローシップのフェローとしてアメリカ・イギリスで研究活動を行っている山岡祐衣氏、尾角光美氏にそれぞれ「子どもの死亡事例の検証プログラム」、「グリーフケアの提供体制」について最新動向をご報告いただきます。このセミナーでは、それぞれのテーマについて現在の日本が抱える課題や今後の問題解決の方向性について提案していただくと同時に、ワークショップを行うことで、参加者のみなさんがそれぞれの社会課題に対し「他人ごとから自分ごとへ」と引寄せて考えるきっかけの場となることを期待しています。

日時・会場	2017年6月2日（金）18:00～21:30（17:30受付開始） 日本財団ビル（東京都港区赤坂1-2-2）
お問い合わせ	日本財団 ソーシャルイノベーション本部 国際ネットワークチーム 担当：齊藤・田中 Tel: 03-6229-5181　 Email: fellowship@ps.nippon-foundation.or.jp

お申し込みはこちら

https://goo.gl/forms/wSH6gaON5xmyPZgk1

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION